音楽　気付く力を高め，よりよい音楽表現を追求する音楽科学習

1　音楽科における「問いをもち，主体的に追求する姿」

今日は，「待ちぼうけ」を歌いました。最初に，この詩を読んで，内容が暗そうだなと思いました。だから，どんな歌か雰囲気を予想する時は，想像がつきませんでした。だけど，曲を聴いてみたら伴奏や歌が明るくて，とても不思議に思いました。どうしてこんなにあべこべなのだろう。（児童A）

上記の文章は，小学５年「詩と音楽を味わおう」の「待ちぼうけ」に出会った時のふりかえりである。児童Aは，詩から感じ取った自分の思いと実際に楽曲を聴いた時のギャップから，「どうして？」という問いをもった。詩の内容を深く読み取ったこの子どもは，その後詩の様子が伝わるような歌い方を見付け，速さや表情などを工夫して歌う姿につながった。

また，次の文章は，中学３年「和太鼓アンサンブルを楽しもう～We love Wa-Daiko～」の題材の終わりでのふりかえりである。

私は，小学生の時からリズムを考えるのが苦手でしたが，今回の授業で身近にあるリズムを使えば（組み合わせれば）良いことが分かりました。身近なリズムと考えると，私たちの身の回りはリズムがあふれていると思いました。グループのメンバーでそれらを組み合わせたり，少し変えたりするだけでオリジナルのリズムが出来上がりました。（生徒B）

生徒Bは，リズム創作を行っているうちに「どうすればリズムがつくれるのだろう？」という問いをもった。そして，それを解決する糸口として身近なリズムに気付き，グループのメンバーと試行錯誤しながらそれらを組み合わせることで新たなリズムをつくっていった様子がうかがえる。

このように「どうして？」「どうすればいいのだろう？」などと課題解決に向けて自分自身に問いかけることを出発点として，グループやペア，学級全体での学び合いの中で試行錯誤しながら解決に向かっていく姿がこれまでにも多く見られた。

音楽科における「問い」が生まれる場面として，「自己との対話」「他者との対話」「作品との対話」の三つの場面が考えられる。

「自己との対話」は，表現技能を高めようと繰り返し練習している中で，「どうやったら高い声が出るのか？」などと自分自身に問いかけることである。また，「他者との対話」は，グループなどで他者と関わりながらお互いに思いや意図を伝え合う中で，「よりよい音楽表現にするために何をどうするか？」などとお互いに問いかけることである。そして，音や音楽を聴いたり，演奏したり，楽譜を見たりする中で，音楽を形づくっている要素に対して，「この部分はどうしてスタッカートなのか？」「雰囲気の違いは，何がそうさせているのか？」などと作品に問いかけることが「作品との対話」である。

これら三つの「問い」が生まれる場面をもとに，音楽科として求める「問いをもち，主体的に追求する姿」を次のようにまとめた。

＜自己との対話＞
○ 表現技能を身に付けよう，高めようと繰り返し練習している姿。
○ よりよい音楽表現にするために試行錯誤している姿。
○ 音楽を聴いて，そのよさを感じ取っている姿。

＜他者との対話＞
○ 気付いたり，感じ取ったりした自分の思いや意図を伝えようとしている姿。
○ よりよい音楽表現にするために他者と関わりながら試行錯誤している姿。
＜作品との対話＞
○ 楽曲のもつ雰囲気と音楽を形づくっている要素を関連させて思考している姿。

2 「問いをもち，主体的に追求する姿」を求めて

ただ音を並べるだけでは曲にならないことが分かりました。音と音をつなげるのが難しかったです。流れをつくることは，音楽にとって大事なことが分かりました。（生徒Ｃ）

上記の文章は，中学２年「ドラマのオープニングに曲をつけよう」の１時間目の授業終わりの生徒Ｃのふりかえりである。旋律をつくっているうちに「どう音をつなげたらいいのか？」という問いが生まれ，試行錯誤しながらつくっていくうちに「音楽には流れが大事だ」ということに気付いた様子がうかがえる。短い文章ではあるが，音楽にとって大事なことに気付き，まさに言い当てている。

また，次の文章は，２時間目冒頭に友だちの作品を聴いての感想である。

今日は曲づくりの２回目で，前回つくった友だちの作品を聴きました。それを聴いて，同じようなリズムを繰り返したり，全く同じものを入れてみたりすると曲全体に流れと統一感がでることが分かりました。僕もやってみたいです。（生徒Ｃ）

生徒Ｃは，友だちの作品から同じようなリズムを繰り返したり，同じ旋律を再度使ってみたりしていることに気付き，それが曲全体の流れや統一感につながっていることに気付いた。

問いをもち，主体的に追求する姿が表れるためには，子どもたちの気付く力を高めていかなければならないと考える。気付く力とは，演奏の違いに気付いたり，他者とのとらえ方の違いに気付いたり，楽曲の雰囲気をつくりだしている音楽を形づくっている要素に気付いたりするなどの力である。

この力を高めるために，音楽を形づくっている要素を焦点化した授業展開を構想し，子どもたちが要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受することが大切となる。その上で楽曲や作品，演奏などとの出会いやその出会わせ方の工夫が大切になるであろう。また，授業の土台として，子どもたちの気付きや感じ方，表現を認める教師の姿勢と子どもたち同士の言葉から「問い」が生まれるような言葉をつなげていく教師のはたらきかけが大切になると考える。

音楽科として，生徒が問いをもち，主体的に追求するようになるための手立てを次のようにまとめた。

○ 題材や本時のねらいに即した音楽を形づくっている要素に焦点をあてた授業展開の構想。
○ 楽曲や作品，演奏との出会いと出会わせ方。
○ 子どもの気付きや感じ方，表現を認める教師の姿勢。
○ 子どもたち同士の言葉をつなげていく教師のはたらきかけ。

（文責　小村　　聡）